

Bosse, Abraham

Traité des manières de graver en taille-douce sur l'airain, par le moyen des eaux fortes & des vernis durs & mols. 2nd ed.

Paris, Pierre Emery, 1701. 70p. 16 plates (copper mono.). 19×20cm. <K735-B>
文献番号 8-59

ボス、アブラーム『硝酸、硬蠟、及び軟蠟を用いた凹版画の制作法』

17世紀フランスの風俗を生き生きと版画にあらわしたことで知られるアブラーム・ボス(1602-76)によって書かれた銅版画の技法書である。初版は1645年であるが、この1701年の第2版では、セバスティアン・ル・クレルクの考案した新しい技法も補足として紹介されている。さらに1702年には、ボスと親交のあったイギリスの版画家ウィリアム・フェイソーンによる英語版が出ている。

ボスが序文で解説しているように、当時の凹版画技法の代表的なものとしては、ビュランによって直接銅版を彫るエングレーヴィング(gravure au burin)と、蠟をかぶせた銅版上に針で図を描き、それを酸に浸けて蝕刻するエッチング(gravure à l'eau-forte)があった。この書では後者について解説されており、硬い防腐蠟(verniss dur)の作り方、版を腐蝕させる硝酸(eau-forte)の調合、銅版上での蠟の延ばし方、蠟を削る針の種類とその使い方、銅版への硝酸のかけ方、腐蝕した版からの蠟の除去という具合に、版画制作の過程が順を追って述べられている。続いて柔らかい蠟(verniss mol)の作り方と使用法、版をプレスするローラーの構造と部品、そして刷りが説明されている。ちなみにここで言及されている硬い蠟は、従来の柔らかい蠟の代わりに、ボスの信奉した版画家ジャック・カロ(1592-1635)によって初めて使われたものである。つまりこの書は、エッチングを得意とした天才カロの手法を知るうえでも貴重な資料であるといえる。

全70頁の小著に、16枚の挿絵が付けられている。図はエシヨップ(échoppe)と呼ばれるエッチング用の針の使用法を図解したもので、握る角度によって線の太さと彫りの深さが変わることを示している。服飾表現に卓越したボスらしく、手首の袖口のレース飾りまでが精緻に表現されているのが面白い。(伊藤)

